「家族経営協定」を早期に結び、じっくり時間をかけてスムーズな継承を実現

Point!

「自分が元気なうちに引き継ぎたい。」「いずれは家業を継ぐつもりだ。」そんな父子の思いをかたちにするため、早期経営継承の第一歩は経営のあり方や働き方を明確にする『家族経営協定』の締結でした。日々の農作業の中で知識や技術を継承し、経営についても家族で話し合いを重ねるなど、じっくりと時間をかけることでスムーズな経営継承を実現することができました。

先代経営者

大程農園　前代表
大程 久壽男（おおほど・くすお）さん

JA勤務を経て、父親の後継者（５代目）として就農。「引き継ぐなら自分が元気なうちに」との思いから、2010年に家族経営協定を結び、６年後、息子の寿博さんへ経営を移譲。

後継者

大程農園 代表
大程 寿博（おおほど・としひろ）さん

2008年、結婚を機に会社勤めを辞め就農。父を手伝いながら知識や技術を学び、2016年に38歳で経営を継承した。現在は代表として新しい品種の導入や販路拡大に取り組む。

経営概況

- ○所　在　地 ： 愛媛県内子町
- ○事業概要 ： 農産物の生産・販売
- ○作目・規模 ： 継承前（2008年）果樹（柿2ha、ぶどう0.65ha、ブルーベリー 0.1ha）、水稲0.2ha、
  継承後（2022年）果樹（柿1.5ha、ぶどう1ha、ブルーベリー 0.1ha、栗0.1ha、梅0.05ha）、水稲0.2ha
- ○従業員数 ： 家族従事者3名（代表の妻、父、母）

継承までの経緯

- ○2008年7月　長男・寿博さん（30歳）の結婚・就農を機に、父・久壽男さん（57歳）が経営継承に動き出す
- ○2010年3月　家族の役割分担、給与や休日、継承時期について定める「家族経営協定」を結ぶ
- ○2010年3月～ 日々の農作業を通じて知識や技術を継承、農業経営についてもじっくり継承
- ○2016年4月　寿博さんが代表に就任

大程農園のぶどう畑

早期経営継承のススメ ● ● ● 親族内継承

先代経営者 **息子に経営を移譲した大程久壽男さん**

自分が元気なうちに、早期に経営に参画させて継承を進めたことが良かったと思います。

早期から経営継承に着手したきっかけ

　外で働いていた息子が結婚を機に帰って農業を手伝うようになったので、私は自分が元気なうちに継承して息子の後押しをしようと考えました。早期に継承できれば私たちも自由な時間をつくることができますし、農業者年金をもらうために65歳までには継承したいと思っていました。

　まずは、「家族経営協定」を結ぶことから始めました。家族であっても仕事の分担や給与・休日などについて、みんなでしっかり話し合って決めたのは良かったと思います。

内子町の家族経営協定締結式にて

早期継承のメリット

　移譲する前に安定した経営基盤を一緒に作り上げることができました。今は肩の荷が下りて、少しほっとできるようになったこと、仕事の心配をせず外出できるようになったことでしょうか。第二の人生を楽しんでいます。後継者には、できるだけ早く経営に参画させて継承するほうが良いですね。

後継者 **父から経営を継承した大程寿博さん**

いずれは家業を継ぐつもりだったので、まったく抵抗なく継承することができました。

経営を継承されることになって

　子供の頃からいずれは家の仕事をしようと思っていたので、就農後、程なくして父から経営継承の話を聞いたときも、まったく抵抗はなかったです。

2020年度全国優良経営体表彰（販売革新）で
全国担い手育成総合支援協議会会長賞受賞

早期継承のメリット

　果樹の収穫は年に1度なので、継承に10年かけても同じ作業は10回しかありません。ですから慣れるまでに時間はかかります。父が早くから継承に動き出したおかげで、技術も経営もじっくり時間をかけて継承できました。

　今、「スマート農業」が話題になっていますが、今後はもっと作業が楽にできるよう機械化を進め、ドローンなども積極的に活用していきたいと考えています。また、SDGsにも取り組んでいきたいと思っています。